

中山間地域を未来へ繋ぐ活動に参加しませんか？

～ しがのふるさと支え合いプロジェクト～

参加企業様
大募集！！



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

未来へつなぐバトン

「中山間地域」とは、山間地とその周辺の地域をいいます。滋賀県では、県土の約65%がこのような地域です。農村は、食糧生産の場であるだけでなく、雨水を一時的に貯えて、洪水や土砂崩れを防いだり、たくさんの生き物を育みます。また美しい農村の風景は、私たちの心を和ませる役割を果たしています。

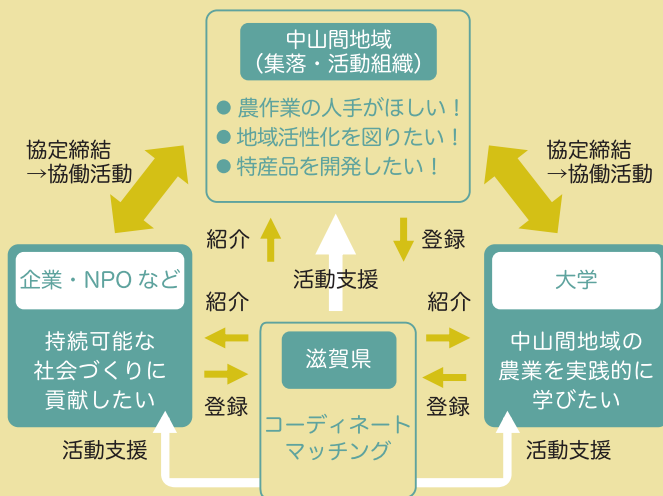
近年、中山間地域では人口減少や高齢化の進行、農業の担い手不足などにより、耕作放棄地の増加が心配されます。

今後、住民の力だけでは地域の農業、農村を維持するのが厳しい状況になりつつあります。

都市部に住む人々にも様々な『めぐみ』をもたらす中山間地域を、みんなで守っていきませんか？

都市と農村、世代を超えた人々との交流を「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通して広げ、この大切な場所を未来へつなぎましょう！

プロジェクトのイメージ



【しがのふるさと支え合いプロジェクト】事業紹介

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」とは、中山間地域の活性化を目的に、地域の集落等と企業や大学、NPO法人等の皆さんが協働し、農作業や棚田の保全活動、都市農村交流活動などを行っていただく取組です。県では、協働活動のコーディネーターや、相手先とのマッチング、協定を締結し協働活動を行う団体への支援を行っています。

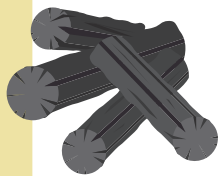
米原市の東草野炭焼き&食文化保存会は、令和2年度に県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録し、地域活性化に向けた協定を締結して、炭等地域資源の商品開発や販路開発等の協働活動に協力してくれる企業等を募集しています。

詳しくは
こちら



東草野炭焼き & 食文化保存会の紹介

【アクセス】名神高速道路米原、長浜、関ヶ原各インターチェンジより(約40分)



美の隠れ里 東草野



道の駅伊吹の里から姉川に沿って山手へ車で約20分走った。そこに広がる美しい山村が東草野。甲津原、曲谷、甲賀、吉楸の4集落が「東草野の山村景観」として重要な文化的景観に指定されている。日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」祈りと暮らしの水遺産」にも指定されるエリアだ。

関ヶ原につながる大通りの裏街道としての歴史を紡いできたという山里には、数多くの伝承が残っている。本能寺の変の折、長浜城の留守を守る秀吉の母な、妻ねにも危険が及んだことから逃げ隠れた里が東草野だ。そのほかにも石田三成や顕如・教如父子が逃げ隠れたという言い伝えも残っている。伊吹山系の山々に囲まれた東草野は、まさに隠れ里というにふさわしい山村だ。

この東草野で様々な地域課題を解決しようとする東草野炭焼き&食文化保存会代表の法雲さんにお話を伺った。

▶山菜ピザ



「東草野炭焼き&食文化保存会」

代表 法雲 俊邑 氏

地域と共に歩むお寺

少子高齢化と人口減により集落の維持が困難になった4集落は、平成19年に「なんとかしたい」と力を合わせて動き出す。情報共有や話し合いの場を設け、次々に活動を広げていった。そば打ち、雪掘り野菜収穫イベントなど、東草野ならではの環境や特徴を活かした活動により、地域外からの参加者を増やしていく。様々な事業を展開していく中、「山を生かさない」と地域活性化で「できない」と感じた法雲さんたちは、2020年に新しく「東草野炭焼き&食文化保存会」を立ち上げた。外からの視点も重要と考え、計10名のうち東草野以外の方が2人いる。東草野では、木を切り出して炭にしたり、山菜を採って暮らしを繋いだりと、昔は山の恩恵を受け生活をしてきた。便利になった今はその暮らしは薄れているが、今一度、受け継いできた生活を発信し、山を活用していくことになったのだ。また、地域外との交流を大事にする東草野では炭焼き体験やピザ焼き体験が人気イベントになった。イベントの参加をきっかけに移住を決めた方もいる。活動の最終目標は移住者を増やすこと。そのために、まずは関係人口を増やすことが重要と話してくれた。地域づくり活動家の法雲さんは地域のお寺「観行寺」の住職でもある。「技術を身につけて地域のために貢献したいという気持ちがあった」と語る法雲さんは各地で学び、教職としても活躍していた。いずれはこの地域に帰って寺を継ぐことを子どもたちには決めていたそうだ。地域と共に歩む存在のお寺を背負い、地域を背負う。その強い覚悟が、原動力になっている。

販路開拓やイベントの協働パートナーを募集中

東草野は、炭焼きを生業にしていた歴史が長かった。鉄砲生産で有名な長浜市の「国友村」へ火力の強い良質な炭を供給していた、との記録が残っている。会では地域の歴史とともにある炭や山菜を活用したイベントや商品づくりを通じ、地域も元気になり関係人口や移住につながる取り組みを開始した。現在、ヨモギやミョウガといった山菜の栽培を拡大しつつ、山から木を切り出して炭焼き窯で焼き、黒炭を作っている。黒炭は火力が強い炭、鉄を作るためにも使われてきた。また、炭は燃やす役割だけでなく、植木鉢の下に入れておくと根腐れしない効果があったり、消臭・乾燥いろんな面で役立つことが知られている。現在、炭の販路開拓や新たな商品開発を一緒に考えてくれる事業者を募集中だ。合わせて、イベントや作業も一緒に進めていけるパートナーも探しており、「東草野の魅力を感じてもらおうのが一番」と熱いラブコールを受けた。

▶山菜(ミョウガ)の畑



▶完成した炭



▶ピザの焼ける本格的な石窯

お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくはこちら

